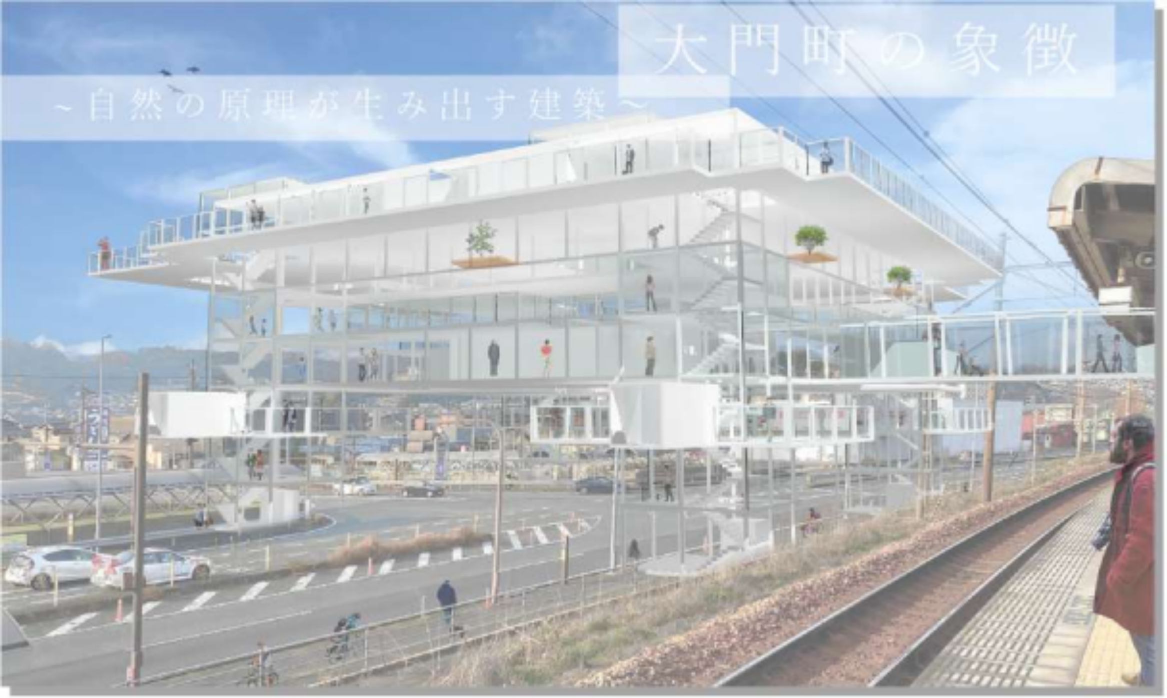
大門町の象徴

～自然の原理が生み出す建築～



■大門町周辺背景

大門町背景　古代の大門町は、入り江が陸地側に深く入り込み、地名の由来は3つあります。1つ目は真言宗の古刹・高野山真明寺（しんみょうじ）の寺院の正門が地名の由来になった説。2つ目は大門＝入り江という説。周辺にも海域があったため大きい入り江の「大」と陸地と陸地に挟まれた狭い海の「門（と）」が合わさり「大門（おおと）」となりそれが音読みに変化して「大門（だいもん）」となった説。3つ目は大門＝古代「大野郷」の変化という説。当計画では2つ目に唱えた大門＝入り江という説を計画の一部に組み込んでいくことにする。

大門町現状　大門町は駅を挟んで北側の特徴として高等学校や幼稚園があり学生が多くみられる。大門駅南側は交通量の多い国道2号線が東西方向に伸びており町を北と南に分断している印象がある。また大門町南に伸びる幹線道路にはＪＦＥスチールがあり大門町の工業の中心的拠点となっている。幹線道路を利用する大型トラックが多く夜間には道にトラックをとめてコンビニ等商業施設を利用する人も見受けられる。この幹線道路は大門町市街地を東西に分断している印象がある。このことから大門町は駅、幹線道路によって北、東、西に分断される。

大門駅　地下道

大門駅に繋がる地下道は、大門駅への案内板はあるが小さく見えづらいため初めて利用する人にとって大門駅への方向がわかりづらい印象である。

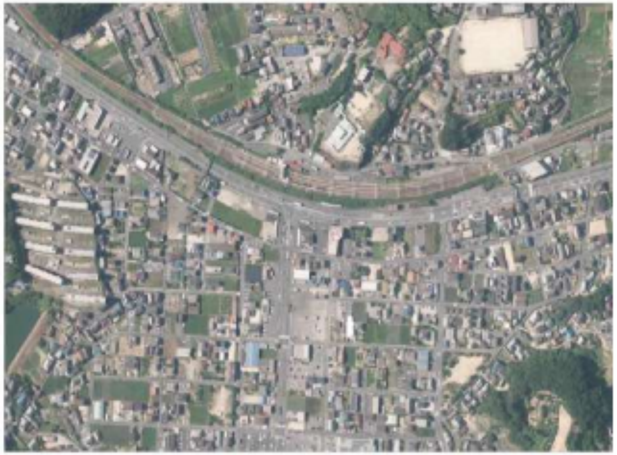
国道２号線

車の交通量が多く福山方面、笠岡方面、大門町各団地方面へ向かう人が多い。

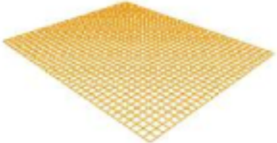
大門駅

山陽本線が広島方面、岡山方面に伸びており大門駅は曲がった立地により線路は斜めに傾いている。

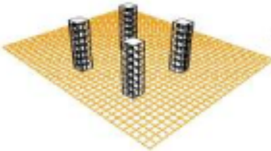
■大門駅周辺地図



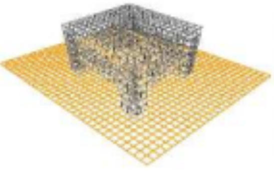
■計画ダイアグラム



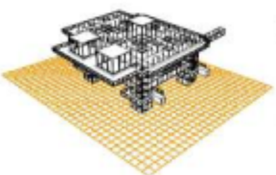
1）
昔入り江であった大門駅前には、様々なものが堆積し陸地が形成された。本計画の活動空間の最小単位として3000×3000×3000mmのグリッドを連続で配置する。



2）
1）をもとに、道路をまたいだ形にするため4本の柱を配置する。柱には、コア（階段とEV）がそれぞれ配置されている。



3）
4本の柱を繋ぐように、グリッドを堆積させた。堆積してできた空間には、ラウンジや飲食店、カフェなど駅を利用する人が利用できる施設とともに、図書スペースや学習スペースを設けることで、地域の学生に新たな勉学の場になるよう計画し地域に点在した市民活動の場を、この場所に集積することで、それらに関係性が生まれ、市民のためのパブリック空間ができる。



4）
建物をガラスで囲い外部からも内部からも町を見ることができる建物にする。また、大門駅までグリッドを拡張し、駅の利用をしやすくする今まで駅のホームから大門町の景観を見ることができたが駅のホームよりも高い位置から大門町を一望することができる。